

腫瘍マーカー について

日本臨床検査専門医会
今福裕司



Q1. 「腫瘍」とはなんですか？

「腫瘍」とは私たちの体をつくっている細胞が、正常な状態ではなくなり、どんどん増えた状態のことをいいます。腫瘍は速い速度でどんどん増えるものもあれば、ゆっくりゆっくり増えるものもあり千差万別です。私たちの体に著しい悪影響をあたえるようなタイプの腫瘍を「悪性腫瘍」（一般的にいわれます「癌」はこれに属します）といい、一方で軽度の影響を与えるレベルにとどまるものを「良性腫瘍」といったりします。私たち人間も一人ひとりが異なる個性を持ちますが、腫瘍も一つひとつが異なる性質を持っています。腫瘍と一口にいっても治りやすかったり、治りにくかったり、それぞれ大きく異なることは知っておきたいことです。

Q2. 腫瘍マーカーとは何ですか？

腫瘍に関連して値が変化する検査のことで、いろいろな腫瘍に対応しているいろいろな検査がありますが、多くは血液検査です。昔から今に至るまで、腫瘍を検査で見つけたいというのは多くの人々が望んできたことでした。多くの腫瘍では小さいうちに見つければ見つけるほど、より問題なく治すことが出来るからです。多くの研究がなされ、ある腫瘍を持っ

ている人の中で、一部の人が血液中に、腫瘍細胞から出てきたりする物質が増えているということが見つかってきました。このような物質は腫瘍を持っている目印（マーカー）とも考えられますので、そのような物質を見つける検査を「腫瘍マーカー」といっております。

Q3. 腫瘍マーカーが高いと「癌」なんじゃないですか？

必ずしもそうではありません。腫瘍マーカーは腫瘍があれば高くなりやすく、腫瘍がなければ高くなりにくい検査であると考えて下さい。検査結果には「高い」とか「低い」とかが書かれていますので、実際にはそんなにきれいに割り切れるものではありません。腫瘍がなくても高い場合ももちろんあります。

Q4. 腫瘍マーカーが陰性でしたが「癌」ではないと安心していいですよね？

残念ながらそうではありません。腫瘍によってはもともと腫瘍マーカーが高くないタイプのものもありますし、高くなるタイプでも腫瘍が小さいと高くないものです。ということは現在のところ、残念ながら多く



の腫瘍マーカーは、小さい「癌」は見つけれない、早期発見には向いていないということがいえると思います。

Q5. それでは腫瘍マーカーはどのように役立つのでしょうか

様々な状況証拠から腫瘍があることが分かっている人で腫瘍マーカーが高い場合、治療によって腫瘍が小さくなるとともに腫瘍マーカーの値が小さくなります。つまり、腫瘍マーカーでは治療の効果がみられる（これをモニタリングといっています）ことが最大の有効利用であると考えます。定期的に腫瘍マーカーを見ていて最初高かった人がずっと陰性が続くと安心していられますが、長い期間の後にまた上昇してくることがあった場合に、再発ではないかということで大事にならないうちに次の治療をはじめられたりするので。